

パキスタン:シンド州の活動家、アカシュさんとノーアさん、解放される！



アカシュさん



ノーアさん

野党シンド国民党のアカシュさんとノーアさんが17カ月の拘禁後に解放されました。2009年10月、2人はシンド州ハイデラバードで拉致されましたが、今年3月17日にパンジャブ州サディカバードのバス停で解放されました。現在2人は家族の元に戻っています。

アカシュさんに面会したパキスタンの人権委員会などの話によると、アカシュさんは心身ともに衰弱しており、記憶も曖昧だということです。アカシュさんは拘禁中ずっと手足を鎖でつながれ、目隠しをされて定期的になぐられた上に、眠ることも許されなかったと話しています。

アカシュさんの家族は、積極的な行動を起こしたアムネスティに対して感謝を表明し、アムネスティその他の人権団体の協力なしには2人が生還することはなかっただろうと述べました。

背景： シンド国民党 (JSQM) の副議長アカシュさんと党員のノーアさんは、2009年10月パキスタン南東のシンド州で、モスクに向かう途中に拉致されました。目撃者によれば、十数人の拉致者の中に制服姿の警官も数名いたとのことでした。

政府や警察は関与を否定していましたが、最高裁はハイデラバード警察に対して拉致疑惑に対する報告書の提出を指示しました。その結果2人は内国情報局 (ISI) の職員に拘禁されていることが判明しました。

アカシュさんは2006年にも10カ月にわたって強制失踪して拷問され、裁判によって釈放された経験があります。

シリア：良心の囚人ハイタム・アル・マレーさん、釈放される！



ハイタム・アル=マレーさん

ハイタム・アル=マレーさんが今年3月8日に釈放されました。これはアサド大統領が前日に発令した、70歳以上の高齢者・不治の病の患者・軽犯罪者の囚人に対する恩赦の一環として行われたものです。

ハイタムさんは、2009年9月に出演したテレビのインタビューと、シリアの人権侵害に関してネット上で発言したことで、裁判で不当な有罪判決を受けました。アムネスティの電話取材に対してハイタムさんは、「アムネスティや私を支持して下さい世界中の人びとや政府の方々に感謝いたします。活動を続けることで、私を支持して下さい方々への約束を果たしたいです。アドラ刑務所にいるすべての良心の囚人その他数千人を釈放するようシリア政府に求めます」と述べました。

息子のイヤスさんは、アムネスティその他の支援者に感謝を伝えました。イヤスさんは「シリアに思想犯が4,000人しかいないと考えているのは楽観的過ぎると情報局の職員に言われたようですが、父の使命はまだ終わっていません。実際にはもっと多くの人々が捕らえられており、最後の1人を釈放するまで父が休むことはないでしょう」と語りました。

アムネスティはハイタムさんの釈放を歓迎する一方で、シリアで拘禁されている他の多くの良心の囚人が釈放されるよう、引き続き活動していく必要があると考えています。

アムネスティ事務総長、アウンサンスーチー女史と会談

昨年11月の自宅軟禁の解除を受けて、今年2月18日、アムネスティ事務総長サリル・シェティは、スーチー女史と、ミャンマー (ビルマ) におけるアムネスティの活動について

話し合いました。会談は、2010年の総選挙および地方選挙と前後して実施されたアムネスティの「3つの自由」(表現・結社・集会の自由) キャンペーンにも及びました。シエティ事務総長は、ミャンマー問題に強く関与することを表明するとともに、スーチー女史が、年頭演説でアムネスティの名前を挙げたことに感謝を伝えました。

スーチー女史は政治犯に対するアムネスティ会員の活動に感謝するとともに、ミャンマーや途上国におけるアムネスティの人権活動を非常に支持してくれました。これは過去22年間、ミャンマーでのキャンペーンに関わってきたすべての人びとへの賛辞だと言えるでしょう。

カシミール：緊急行動での明るいニュース 14歳の少年、釈放される！

ジャンムー・カシミール州当局は、アムネスティの介入を受け、14歳の少年を釈放しました。

アムネスティは今年3月、州都のスリナガールで、ジャンムー・カシミール州治安法 (PSA) に関する報告書を発表しましたが、その中には PSA による未成年者の拘禁の問題も含まれていました。調査団は14歳の少年の拘禁に関する情報を得て、その後ファイザン・ラフィク・ハキーム君の家族と面会することができました。

3月31日、アムネスティはファイザン君の釈放を求める緊急行動を発信しました。州当局は当初、ファイザン君は27歳だと主張していましたが、家族は彼がまだ14歳であるという証拠の出生証明書をアムネスティに提出しました。こうした圧力の下で、警察は年齢検査を実施し、国際基準から見て彼の年齢は17-18歳であることを発表しました。

アムネスティの緊急行動オンライン・コミュニケーション・チームは、アブドゥラ州首相がミニブログを質疑応答などに積極的に活用していることから、ツイッター上でキャンペーンを立ち上げ、ファイザン君の釈放を求めました。

ファイザン君に関するツイートが始まるとすぐ、米国の活動家やソーシャルメディアを活用しているカシミールの若者たちが内容を拡散し始め、州首相にも向けられました。

世界やカシミールの人々がツイッターを通じて州政府に圧力をかけ、ついにアブドゥラ州首相も「数日中にすべての側面を検討して決定を下します」という回答を送りました。

緊急行動発信の5日後に、ファイザン君は釈放されました。このケースは、アムネスティの調査が有効であり、ソーシャルメディアを活用した緊急行動などが、ひとを救うことができるということを表しています。

インドの人権擁護活動家、保釈される！

4月18日、最高裁の決定によって、ビナヤク・セン博士がライプル刑務所から釈放されました。

セン博士は、暴動扇動、共謀、武装マオイストとの共同謀議などの嫌疑で有罪になりましたが、異議申立てをして、チャッティスガル州高等法院で終身刑の求刑が審議にかけられていました。

アムネスティはセン博士の保釈を歓迎するとともに、博士への嫌疑が事実無根であり、博士に対する有罪判決が覆るまで、博士の罪が政治的なものであることを訴え続けていきます。

こうした事態は喜ばしいものですが、チャッティスガル州の人権擁護運動家たちはいぜんとして妨害をうけ、投獄されています。アムネスティはさらに、2010年9月から政治的理由で投獄されているアディバシ族の活動家、カルタム・ジョガさんの救済に向けて運動していく予定です。

UA ニュース

発行：アムネスティ・インターナショナル日本
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-2 共同ビル（新錦町）
4F
TEL：03-3518-6777 FAX：03-3518-6778
E-mail：uacenter@amnesty.or.jp

UA年会費 3000円 郵便振替 00120-9-133251
加入者名 社団法人アムネスティ・インターナショナル日本